midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

７月号の１枚：森を案内するForestNovaの学生

［巻頭言］空気・水が余りにも自然にあるから

自然に対する考え方を、根底から検討し直さねばならなくなった

今回の東日本大震災・福島原発のふたつの大災害で自然に対する考え方を、根底から検討し直さねばならなくなった。エコノミックアニマルと揶揄された時期もあったが、豊かで快適な生活を求める余り危険を承知で核エネルギーを利用した結果、原発災害を”想定外”と言い訳する。

被災者の方々には誠に申し訳ない言い方になってしまうかもしれないが、今回の”原発災害“は、人間の自然に対する畏敬の念の欠如に対する忠告、人間の利己主義・経済至上主義、更に人間の奢りに対する警告だと思えてならない。

空気や水が余りにも自然にあるから、それを与えてくれる森林をパルプ生産などの為に不法伐採したりして、植林を差し引いても、地球から毎年750万ha ばかりの森林が減少している。

人類創生の頃は130億haあった森林が、不法伐採や人口増加による焼き畑農法などで今や40億ha ばかりに減っている。

今は原発問題が過熱しているが森林減少は、更に重大問題だ。森林は、空気・水・土壌・食糧の供給源だけではない。他の生態系との調和や、木の葉の蒸散作用が上昇気流をつくり水と大気の循環作用となって、地球の気候の安定にも繋がっている。森林が無くなれば、全てが失われてしまう。人間は自然に対する畏敬の念が余りにも希薄だ。森林の保全・再生を訴え続ける当会として、森林が無くなれば震災と桁違いの災害が地球の全生物を襲う事を警告しているのだ。これを考えて欲しい。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2011.07

７月　３日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
７月１７日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森

6月5日（第一日曜日）

ForestNova☆の記事でもご紹介させていただいていますが、今月の活動はNHK主催の環境イベントでの出展と日程が重なってしまったため2つに分かれての活動となりました。そのため、学生5名での活動となりました。人数が少ない分、いつも以上に気持ちを高めて活動に向かいました。

緑のダムの方々から間伐材コンペに使用する材を準備してほしいとの依頼がありました。そのため今回は、小原本陣ではなく嵐山にて活動をしました。

2本の木を伐り4mほどの長さに切り、道沿いに並べるのが今回の活動の目標でした。

一本目の木を倒す際に、他の木の枝にかかるという「掛かり木」の状態になってしまい大変苦戦してしまいました。しかし、丸茂さんと山仕事をしている木林士さん2人の力をお借りして無事に倒すことができました。木の重心や枝の張り方を見て、ロープで引く方向や力加減の調整をしていて、森で働くプロのすごさを肌で感じることができました。二本目も無事に倒すことができました。

午後は、午前に倒した2本の木の皮をむき4mの長さに切るという作業を行いました。5月ということもあり木の成長が盛んなため、水分を多く含んでいてきれいに皮をはぐことができました。木を切るということで、気を張って作業を行っていました。そのため、疲労で集中力が途切れる場面がありました。森での作業は危険がつきものですので、所々で休憩をはさんで活動していかなければと感じました。

また今回の活動後には、小原本陣で活動している山の地主である小林さんのお宅に呼んでいただき、ご飯をいただきました。活動後の小林さんと過ごす時間は、私たちForestNova☆の活動への大きなモチベーションの1つとなっています。今回の活動はプロの技を見ることができるなど多くの学びがありました。これからもより一層真剣に、楽しく活動に取り組んでいきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

齊藤　駿一（Forest Nova☆）

[定例活動]若柳嵐山の森

6月19日（第三日曜日）

「夏草に負けぬ、交流力！」

６月後半、森入口のガーデンでは、青草の勢いが初夏の生命力を見せつけている。その中に、薄紫色のアザミ、白のドクダミがチラホラ混ざっている。

参加者は初参加の６名を加えた「生命の森宣言・東京」が１２名。なみすけの森づくりの「高井戸中＋卒業生」が２１名。さらに望星高校が先生も含めて６名、学生連合フォレストのノバ１２名、一般２４名、体験学校に２名。合計７７名の９団体が参加。

初参加の多彩な顔ぶれと、朝礼時の各活動班の作業計画発表後は、常連・熟年・若者・少年との年齢差を越えた森現場での交流は明るい雰囲気が印象深い。

更に相模原市の職員、杉山さんと古瀬村さんの参加は、市の私たちの活動の活動への関心の高さが感じられる。

左２枚：小原本陣の森より
右１枚：若柳嵐山の森より

・望星・なみすけの森では、高井戸中の生徒に森に詳しい杉山さんが「二人で引くノコは胴引きノコが良いよ」と教えながら森に親しむ中学生に期待を膨らます。
・ForestNovaの森では、林業専門家を目指す”木林士（キリンジ）”水出さんと井上さんが学生たちと林業の現状と課題を語り合う。水出さんは、保育園の父の日のプレゼントに間伐材を使った、木のふれあいが森林の未来に繋がればいいねと言う話し。現状の林業の大変さから出た言葉。
・原田先生が率いる麻布大学の環境コミュニティ学科の学生は、Forest Nova学生と作業経路の設営。
・上智大学人材養成研究センターの阿部研究員と平野研究員は、ここの間伐材の積み木が森林保全・環境教育に生かせないかと精力的に森を見て回っていた。
・生命の森宣言・東京の森は、参加者も増えてこれからの活動の広がりが期待できる。

午後は、キノコ菌打ち、キノコ畑は、モマ工房の奥のくぼ地、キノコ汁の期待も膨らむ。森林の多様性と公益性を活動の中心に掲げる当会として、「民＋産＋官＋学」の協働がますます色濃くなっていく。

また活動後には県立相模湖交流センターにおいて定例総会が行われました。報告は議事録をご覧ください。

伊藤　小夜子（本会、会員）

[報告１]
訃報：
鈴木重彦様、思い出の記

6月6日（月）

当会の管理する「若柳嵐山の森」の地権者・鈴木重彦氏が去る６月２日、お亡くなりになった。９４歳の大往生であった。

当会が森林ＮＰＯ活動を始めたのは１４年前の１１月であった。当時は未だ、森林ボランテイアは殆ど知られておらず都会から森に入って行く集団は、町の人々にとって何やら怪しげな団体に見えた。そんなことから、フィールドとなる森の確保も難しく活動地を転々と変えなければならなかった。活動地確保に苦労している事を同情した人が，この地の大地主にして徳望家の鈴木重彦氏を紹介してくれた。

重彦氏は鈴木家の１６代目にあたり、神奈川県議など多くの重職を兼ねた視野の広い人格者である。森林の荒廃を心配する当会の考えを正確に理解・信頼して、６０haもの森を無条件で出入りする事を許可して下さった。

この間、鈴木重彦氏は一貫して暖かく・広い視野で活動を見守って下さった。当会が今あるのは、一重に氏のご加護のお陰である。１７代目・ご子息の史比古（ふみひこ）氏は、津久井森林組合の専務理事を務めておられるが、ご子息との関係も先代と全く変わらぬ信頼関係で結ばれており、森林組合と当会の交流も具体化しつつある。

当会をここまで育てて下さった鈴木家への感謝の念は計り知れない。この森をますます、健康な美林に育てて行くことが何よりの恩返しだと思っている。

心から鈴木重彦氏への哀悼の念を捧げるものであります。

石村　黄仁（本会、代表理事）

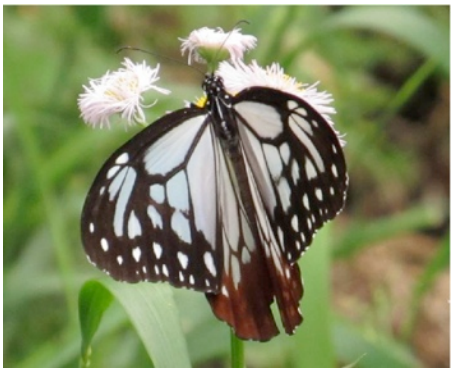
若柳嵐山の森での活動より

[報告２]湘南の森活動報告

５月２日（月）の活動では、野鳥に詳しい鳥人こと池田倫子さんに来てもらって、湘南の森の野鳥調査を行いました。この調査はファンドをもらってのプロジェクト、ガイドマップの続編として、野鳥、昆虫、キノコについてまとめる計画の一部、冬鳥を対象に１月にもう一度実施する予定です。

野鳥の多そうな高田公園から湘南平に行くルートを行き、ヤブラン平経由地獄沢に下りてニリンソウを見学するコースを歩きました。若葉が生い茂ったこの時期、野鳥のほとんどは目にするより、鳴き声やさえずりを聞いて同定するしかありません。池田さんによると、見られたのはヒヨドリ、ツバメ、ハシブトガラス、シジュウカラ、トビくらい。声を確認できたのは、ムクドリ、キビタキ、アオゲラ、コゲラ、ヤマガラ、センダイムシクイ、メジロ、イカル、ウグイス、コジュケイ、キジバト、ガビチョウでした。私たち素人にはなかなか難しい調査でした。

この日はもうひとつ収穫がありました。浅間山付近のショカツサイの花の群生に集まる蝶を熱心に観察していた女性Ｎさんと知り合ったことです。「蝶原理主義者」と自称しているだけに、湘南の森の蝶と食草に詳しく、私たちの下草刈りで大事な蝶の食草を刈り取ってしまわないよう、今後とも情報交換を続けようということになりました。



佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告３]
第９期通常総会報告

第１号議案
第８期 事業報告 、決算報告

･相模原市・市民協働事業の取組み：林地団地化・集約施業の２年目
･甲州古道まとめ草子は国立・国会図書館蔵書に
･全日本森林インストラクター神奈川会との協働、日中青少年森林や意見学校開催
･森林国際認証２期目の審査通過
･相模原市に政策提言：相模原・内陸グリーンハブ都市構想、並行して第一回グリーンハブ都市構想勉強会を開催。東京大学安藤直人教授による、民+産+官+学」による協働研究会
・活動参加者は以下の通り。
　本年の定例活動参加者、924名
　森林広報入場者、10500人

これらに加え各活動班から活動報告をしていただきました。

・決算について
貸借対照表

単位：円

資産の部	流動資産	6579941
	固定資産	904640
負債の部	流動負債	12600
	減価償却	△40870
正味財産		7484581

収支決算書

単位：円

収入の部	収入	7278411
	前期繰	4042106
	収入合	11340517
支出の部	支出合	7253176
次期繰越		4087341

第２号議案
第9期事業計画、収支予算

３・１１の東日本大震災、福島原発の事故を期に大きく時代が変わろうとしている。会として時代の動きを熟視して進路を誤らないようにしなければならない。
･国民の自覚が深まり経済至上主義から「共に生きる、互助主義」へ向かう。
･核に代わる自然エネルギー活用に向かう、森林の保全・再生：環境・経済・社会の調和

活動発足以来、当会が取って来た途は、正にこの２点に絞って来た。
従って、今期も継続して従来の路線を踏襲する。
･相模原：内陸・グリーンハブ都市構想の具現化
・小原本陣の森：団地化・集約施業の具現化、森林組合との協働
・若柳嵐山の森、里山交流：都市とつなぐ、国際認証のガイドラインの更なる具現化
･活動の自立（活動資金の捻出、認定NPOに向けて）
･会員増：目標100人、企業CSR活動との連携、加入呼びかけ
･国際認証材の活用と資金化、製品改良、コストダウン、高付加価値化、市場開発
･企業CSR活動との協働

収支予算書

単位：円

	前年実績	今期予算
収入の部	11340517	8644341
支出の部	7253176	4120000
収支差額	4087341	4491341

※今期は補助金、助成金に頼らず、自立する活動の推進を目指す。

以上を満場一致にて可決致しました。

[報告4]フォレストノバ活動報告

Forest Nova☆は今月、4日・5日に行われたNHK主催のイベント「ECOパーク2011　見直そう！くらし　見直そう！あした」に参加しました。このイベントは、NHKが平成15年度から取り組んでいる環境キャンペーンの関連イベントの1つで、今年のテーマである「エコライフ」のもと、私たちForest Nova☆はブースを出展し、「都市の人たちに森の現状を身近に感じてもらい森に関わってもらう」きっかけをつくることを目的としました。

この目的を達成するにあたり、日本の森の現状を身近に感じてもらい問題意識を持ってもらうこと、間伐材(国産材)を使ってもらうことで森に関わること、という要素が必要であると考え、今回は森の現状を説明する紙芝居の読み聞かせや紙芝居の内容に沿ったクイズ、間伐材を利用した「ドアプレート作り」「ストラップ作り」を行いました。

今回のイベントで初めて試みたことが2つありました。1つは「ストラップ作り」でした。当日は多くの参加者にストラップ作りを楽しんでいただけたようですが、一方で材にインクが滲んでしまったり、ステンシルプレートの厚さによってインクが付きにくいというようなトラブルもありました。

もう1つは材にForest Nova☆のロゴスタンプを押したことです。ロゴを押すことで参加者にForest Nova☆の名前を覚えていただくと共に、ロゴを見た時にイベントでお話したことを思い出してもらうきっかけにもなるのではないか、と考え行いました。

当日は晴天となり絶好のイベント日和でしたが、6月の上旬とは思えないほどの暑さでした。ブースは、外から見た時に一目で森のブースと分かるように、入り口にヒノキやスギなどの枝を括りつけたりと「森林」をテーマとした演出を行いました。その結果、ブースの外観に惹かれて寄っていただいたり、「ヒノキの良い香りがした」と足を運んでくださった参加者もいました。

今回がイベント初参加となったForest Nova☆の1年生は紙芝居の読み聞かせに四苦八苦していましたが、回を重ねるごとに上達し慣れてくると話し方など自分なりにアレンジするようになりました。また、子どもたちと一緒にどんぐりやヒノキの実、枝などを使って作品を作っている時の笑顔はForest Nova☆のメンバーも子供たちも最高の笑顔でした。

今年は国際森林年ということで森林問題に対する意識が上がっている中で、今回のブース出展は日本の森の現状を少しでも身近に感じてもらうための良い機会になったのではないかなと思います。
最後にブースに来ていただいた方から「今まで知る機会が無かった日本の森の現状を知ることができて良かった」というお言葉をいただき嬉しく思いました。
今後も日本の森林の情報を発信していきたいと思います！

松村　勇佑（Forest Nova☆）

[報告５]積み木と森林保全

今回初めて緑のダム北相模の活動に参加しました。私自身、環境教育のボランティアを半年ほど行った経験があるのですが、実際に森林保全の作業をするのは初めてでした。

午前は高井戸中学校の生徒さんたちと間伐作業のお手伝いをしました。何のために木を間引くのかを考えながら作業する中学生たちの姿は頼もしく見え、その表情が

活き活きとしていたのがとても印象的でした。

午後には他の作業チームの活動も見学し、専門的な知識を持った方々から、初めて参加する方々まで、幅広い層の方々が同じ森で一緒に活動していることに、エネルギーを感じました。

今回の活動に参加するきっかけとなったのが、この森林を育てる活動から生まれた「エコ積み木」を使って、アンコールワットを作るイベントでした。私は大学でカンボジアにあるアンコール遺跡の保存修復に関わる仕事をしており、ちょうど子供向けの文化遺産教育活動を始めたばかりでした。当初は子供向けの企画としてはじまったイベントでしたが、子供から大人までが熱心に積み木と格闘し、100分の1の大きさのアンコールワットが完成しました。

アンコール遺跡より

今回の活動で森林保全の大変さを痛感しましたが、同時にその大切さとこれからも地球そして人類に関わる持続可能な教育活動を続けていきたいと、思いを強くしました。カンボジアでも多くの森林が失われ、人々は身近な環境問題に日々直面しています。森を育てる取り組みとその知識が多くの地域に広がり、継続されることを願っています。

（阿部　千依、上智大学
アジア人材養成研究センター）

[事務局からの お知らせ、お願い]

大船渡市へ森の積み木を支援

相模原市と協力関係にあり、東日本大震災で被災した大船渡市の保育園、幼稚園に本会の積み木を寄付致しました。現地には川田理事をはじめ5名が入り、実際に手渡し、説明を行いました。詳しくは来月号で報告致します。速報として、支援先のつむぎの家のウェブサイトでも紹介されています。

http://tumugi.mo-blog.jp/blog/2011/06/post_74cd.html

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミニテイ、マルモ出版